

## 自 己 評 価 表

愛媛県立三崎高等学校  
学校番号(37)

教育方針	生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成する。		重点目標	1 進路決定100%に向け、一人一人に応じた指導を徹底する。 2 部活動と学校行事を充実させ、豊かな人間性を育てる。 3 地域に根ざした学校づくりとボランティア活動を積極的に推進する。 4 基本的な生活習慣を確立し、高い規範意識を育てる。 5 人権意識を高め、いじめや差別のない社会の実現を目指す。	
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	重点目標達成のための実践	本校の重点目標を理解し、その実現に向けて創意工夫をしながら実践に励む。特に地域と連携した教育活動を積極的に行う。	A	文部科学省の研究指定校として、最終年度を迎え、地域との連携活動を積極的に推進することができた。昨年度からのコロナ禍により、直接的なふれあいをすることが難しい状況が続いているが、リモート等で内容を工夫するなど、困難な状況を克服する力が身に付いてきている。	全国募集を本格的に開始してから、3学年が揃う最初の年となる。研究指定も終わるが、地域との連携を更に推進させ、生徒が主体的に活動する魅力的な学校づくりに取り組むとともに、県外生の進路先の充実に努めたい。
	業務改善を目指す円滑な組織運営	業務の精選と情報の共有化を図るとともに、報告、連絡、相談体制を充実させ、限られた時間の中でICT機器等を有効活用し、業務の効率化を目指す。	B	教職員のコミュニケーションは良好であり、学校の規模からも情報共有しやすい環境である。反面、その状況に慣れすぎて、報告・相談が不十分なきも見られた。ICT機器の有効活用は進んでいる。	今年度町営寄宿舎の運用が始まり、生徒数も増加した。次年度も生徒数の増加が予想されることから、業務分担等の見直しが不可欠である。外部人材の積極的な活用も目指したい。
	危機管理体制の充実	本校の危機管理マニュアル及び防災避難訓練の在り方を随時見直すとともに、地域とも連携し、それらに基づいた活動を行う。	B	様々な防災訓練を実施することができた。地域とも連携し、本校生が災害時に果たすべき役割についても確認することができた。今年度から生徒に端末を貸与することとなった。情報セキュリティに関する危機管理をより充実させる必要がある。	先日、伊方町で震度4を記録する地震があった。大きな被害はなかったが、南海トラフ地震等に備え、より現実的な対応を目指したい。情報セキュリティに関して、生徒・教職員にセキュリティポリシーの徹底に努めたい。
学習指導	家庭学習の充実	高い目的意識と主体的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平均家庭学習時間150分以上を達成する。 A : 150分以上 B : 140分以上 C : 120分以上 D : 90分以上 E : 90分未満	A	平常時の平均時間は158分であり、目標を達成することができた。昨年度の平均時間が120分だったので38分上回った。公営塾との連携がより密なものとなったことや、担任等による定期考査に対する意識付けと動機付けがなされたことや、進路への意識や進路実現への意欲の高揚も目標達成の要因の一つであると考察される。	一人一台端末やスタディ・サプリ等を用いて、平常時から継続的に学習する意識を向上させていきたい。また、家庭学習習慣が身に付いていない生徒に対しては学習方法から指導していく必要がある。公営塾との連携も一層図っていきたい。
	教科指導の充実	積極的に研修を行うことで教員の指導力向上を図り、生徒の授業評価ポイント4.0以上を目指す。 A : 4.0以上 B : 3.8以上 C : 3.6以上 D : 3.4以上 E : 3.4未満 漢検2級取得者3人、実用英検2級取得者3人、商業資格検定1級取得者10人、合計16人以上を目指す。 A : 16人以上 B : 14人以上 C : 12人以上 D : 10人以上 E : 10人未満	A	「高校魅力化の流れに関する職員研修」や「Teams活用研修」等を通して、教員の共通認識や指導力向上を図ることができた。また、全校生徒に対し授業評価アンケートを実施して、今年度も全ての教員が4.0以上をクリアできた。	引き続き、生徒からの評価をもとに授業内容を改善するとともに、ICT機器やスタディ・サプリを活用して分かりやすい授業を心掛けた。さらに今後はオンライン授業にも即座に対応できるように、研究を深めていきたい。
			B	漢検2級取得0人、英検2級取得5人、商業資格検定1級取得23人であった。一部目標を達成することができた。検定の合格に向けて目標を立てて計画的に勉強したり、継続した勉強を続けていった成果が出た。	意識付けや動機づけを継続して行い、公営塾とも連携を図り、より高い資格検定合格を目指せたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

生徒指導	生活指導の充実	身だしなみ指導を毎月1回実施し、毎回不合格者0人を目指す。	B	身だしなみの大きな乱れはないが、軽微な点で指導を受ける生徒がいる。風紀委員会から呼びかけをしているが浸透していない部分もあった。	学年によって指導される者の数に違いがみられた。身だしなみ指導の規定を周知させ、生徒会や風紀委員と連携し、意識を高めさせたい。
	交通安全指導の充実	毎月1回交通安全指導日を設け、通学路の交通指導を行う。ヘルメットの確実な着用を呼びかけ、自転車・原付通学バイク生の無事故・無違反を目指す。	A	自転車通学生の事故はなくヘルメット着用も良好であった。バイク通学生も事故なく通学できた。	今年度は自転車向上マナーの指定を受け、例年より交通安全指導が充実したものとなった。次年度以降も交通安全意識が高まるように取り組んでいきたい。
	奉仕の精神を養う教育の充実	地域に貢献する奉仕活動を1回、校内の環境美化意識を高める奉仕活動を2回実施する。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために地域の方々との合同奉仕活動は実施できなかった。	自主的に校内の環境美化活動ができるように声掛けを行ったり、奉仕活動の機会を捉えて意識改革につなげていきたい。
	主体性を育てる教育の充実	各クラスにおいて、各種専門委員を一人二役経験させる。	A	各クラスの配慮があり、多くの生徒が違った専門委員を経験した。	複数の委員会を経験することで、物事を多面的に捉える広い視野を持たせたい。
進路指導	キャリア教育の充実	社会人やキャリアコンサルタントによる講演会、企業説明会を年2回以上実施する。	B	新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、講演会はオンラインで行い、南予地域の企業19社による合同企業説明会を開催した。	講演会開催や愛媛県内の企業と連携したキャリア形成の取組について系統的に進めていく。
	多様な進路希望に応じた指導の充実	進路情報を学期に1回以上発信し、進路に対する意識の向上を図る。	B	進路意識については、企業説明会、進路講演会、進路情報の掲示や配布、各授業、HR活動等を通して向上を図った。	進路実現に対する意識の向上が、まだ不十分であるため、日々の学習や進学関係行事について、その内容・方法を検討する。
		進学、就職内定率100%を達成する。 A：100% B：95% C：90% D：85% E：85%未満	A	多様な進路希望への対応が困難な面があるが、進学、就職内定率については100%になる見通しである。	社会で求められている資質や能力が変化しているため、個別指導に加え、生徒自身が自ら考え、選択するような取組を行う。
人権教育	人権学習の充実	人権・同和教育ホームルーム活動の年3回実施や年1回以上の人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	A	予定通り実施した。ホームルーム活動により、生徒の人権意識の高揚に努められた。	様々な交流や研修会を通じて、生徒一人一人の人権意識が高揚するよう促していきたい。
		人権だよりを年6回以上発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：3回未満	A	生徒が中心となって、一つのテーマのもと今年度は多くの「人権だより」を発行することができた。また「人権だより」を通して、仲間をより深く知ることができた。	来年度も活発に活動し、また違う視点でテーマを考え、人権意識の高揚に努めていきたい。
	情報モラル教育の充実	授業や講演会などを通して携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	B	今後も授業において、生徒に対して情報発信の方法やメディアとの関わりについて理解させていきたい。	様々な場において、情報モラルについての理解がさらに深められるように努力していきたい。
	異文化理解の充実	国際交流会等を通して異文化への関心を高め、異文化を尊重する態度を育てる。	B	海外への短期研修希望者が関心を持って活動した。	授業内での交流を充実させ、短期留学を経験させ、校内での報告会を実施したい。
現職教育	研修の充実	校内研修を年5回実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	A	公営塾とも連携し、研修を行うことができた。	様々な分野の研修を行い、教員の見識を深められる研修を行っていきたい。
		年5回以上の研究授業や公開授業時のアンケート・教員相互の授業参観等を通して、授業改善に役立てる。	B	教科や人権・同和教育HRなどで研修を行うことができた。	日ごろから、お互いの授業を参観し教員相互の授業改善に役立てられるようにしていきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

保健・安全管理	保健活動の充実	毎月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行する。また、生徒保健委員会活動を充実させ、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	A	感染症予防を中心に月毎のテーマを決め「保健だより」を発行できた。それ沿って生徒中心の保健委員会活動を進めることができた。	リーダーの意識向上に伴い、生徒保健委員会の自主的活動が定着しつつある。さらに情報発信や掲示物作成などを工夫していきたい。
		生徒に対し、専門家による健康に関する講話を開催する。	B	新型コロナウイルス感染症の流行により、外部講師の講話は開催せず、教員で対応した。	リモート等も活用し、生徒の健康意識を高めることができる実施方法を考えたい。
	衛生管理の徹底	毎月1回衛生委員会を開催する。	A	教職員健康管理医と日ごろから全教職員が連携を図っており、臨時開催も含めて毎月1回以上開催できた。	感染症対応や食職場環境の改善について、今後も理解と連携が深められるように努力したい。
安全管理の徹底		教職員に対し、教職員健康管理医による講話を年1回開催する。	A	教職員健康管理医による感染症対応の実技研修を実施した。	教職員健康管理医による健康相談の充実と講話等を実施し、教職員の心身の健康管理に努めたい。
		毎学期1回安全点検を実施する。	A	毎学期1回安全点検を実施できた。	日常点検も重視し、迅速な事後措置を徹底したい。
図書活動	図書活動の充実	朝の読書の質の向上を目指すとともに、ブックトークなどを通じて読書に対する意識を向上させる。	A	全校を挙げて朝読書の実施を毎日することができた。ビブリオバトルなどを、授業、ホームルーム等で実施しているクラスもあった。	継続して朝読書を続け、ブックトークなどのイベントも開催したい。
		図書委員会で「図書館だより」を年間3回以上発行し、図書館活動を生徒・保護者に啓発する。	B	図書館内に「先生の推し本コーナー」をつくるなど、図書館の魅力を進めることができた。みさこう日記などで、図書館活動を生徒・保護者に啓発することができた。	「図書館だより」を発行して、さらなるみさこう図書館の啓発活動に努めたい。
		図書館来館者数延べ250人、年間一人あたりの貸出数3冊以上を目指す。 A：250人以上 B：200人以上 C：150人以上 D：100人以上	A	延べ来館者は、延べ250人以上を達成することができた。(389人)一人あたりの貸出数は、2.4冊であった。	引き続き来館者数を増やしたい。一人当たりの貸出数を啓発活動などを通じ、平均3冊を目指したい。
PTA活動	PTA活動の充実	ホームページやSNS、「PTA便り」等を通して、旬な情報を伝える。	B	ホームページは開校日に毎日更新し、Facebookと合わせて、旬な情報を発信できた。「PTA便り」も定期的に発行できた。	ホームページやFacebookを使って、より多くの人に本校の活動が伝わるよう、工夫した情報発信を行いたい。
		PTA総会等、学校行事への保護者の出席率を向上させる。	B	PTA総会は書面開催となり、体育祭も無観客で行ったため、保護者が来校する機会が少なかった。文化祭は多くの方に参加してもらうことができた。	開催が可能な学校行事については、できるだけ多くの保護者が参加できるよう、リモート等も活用したい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	光熱水費・消耗品費の節約を啓発するとともに、計画的で効果的な予算執行をする。	A	教職員への節約意識の啓発に努めるとともに、計画的な予算執行や予算把握にも努めたことで、効果的な予算執行を行うことができた。	更なる経費節減のため、教職員への意識啓発を図っていききたい。また、費用対効果を考慮した予算執行に努めたい。
		迅速かつ適正な事務処理をする。		進捗状況の管理を徹底することで、迅速かつ適正な事務処理を行うことができた。	適正な事務処理ができるよう、研修の充実や確認体制の徹底を継続していききたい。
	環境整備と安全管理	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見・早期対応に努め、安全確保に努めるとともに施設の長寿命化を図る。屋外環境の保全と美化に努める。	A	不良箇所の早期対応により安全確保に努めることができた。また、樹木管理等、屋外環境の保全にも積極的に取り組むことができた。	施設担当者による点検を強化し、不良箇所や施設の老朽化対応に努めたい。また、屋外環境の保全と美化は継続して取り組んでいきたい。
地域協働	地域と連携した取組	地域行事への参加、年5回以上を目指す。 A：5回以上 B：3回以上 C：2回 D：1回 E：不参加	A	新型コロナウイルス感染症の流行により、多くの地域行事が中止になる中、感染予防に努めながら地域行事等に5回参加し、積極的に活動することができた。	新型コロナウイルス感染症対策も含め、オンラインイベント等にも積極的に企画・参画していきたい。
	生徒の自主的な活動の充実	地域活性化に関するコンクール等へ積極的に応募する。 A：5回以上 B：3回以上 C：2回 D：1回 E：不参加	A	「ダルメイン世界マーメイドアワード」(金賞・ベストカテゴリー賞)、「ディスカバー農村漁村の宝」(特別賞)、「EGFキャンパスアワード」(優秀賞、三浦工業賞)、「地域再生大賞」(優良賞)等の成果を収めた。	これまで参加していたコンクール等に加え、生徒の個別の探究活動や教科の特性にも対応したコンクール等にも積極的に応募したい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。